

経営比較分析表（令和6年度決算）

神奈川県 真鶴町

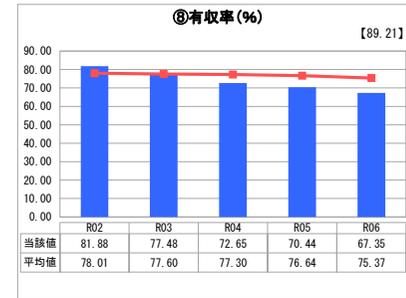
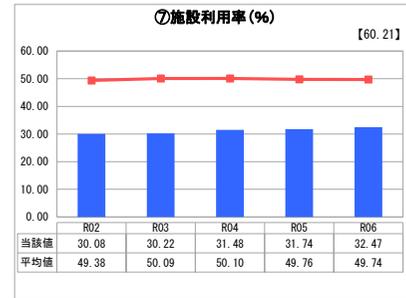
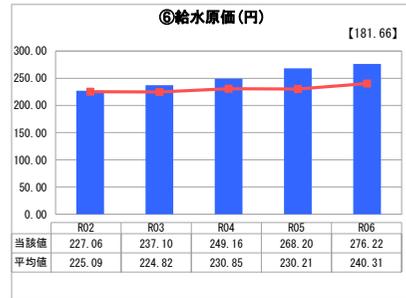
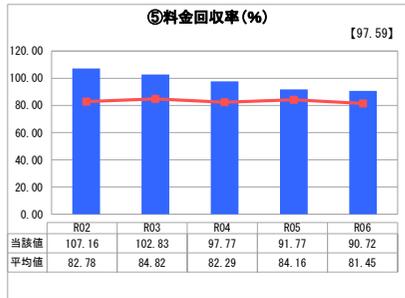
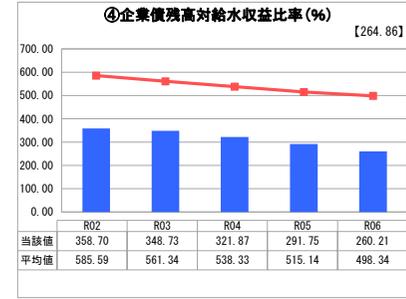
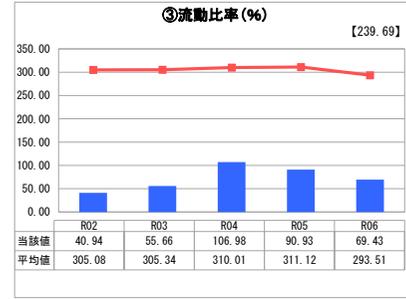
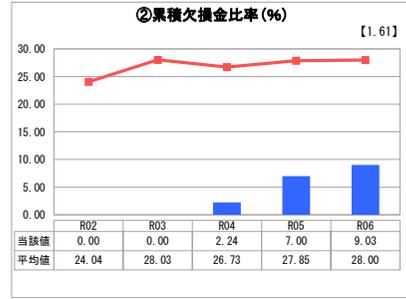
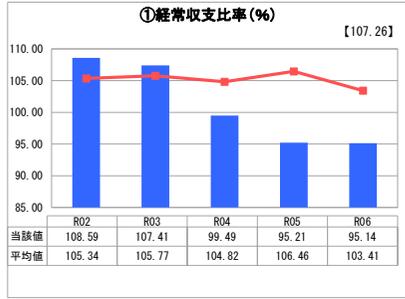
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	58.48	100.00	3,747	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
6,553	7.05	929.50
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
6,474	7.02	922.22

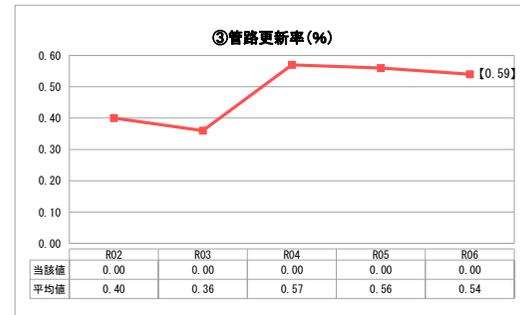
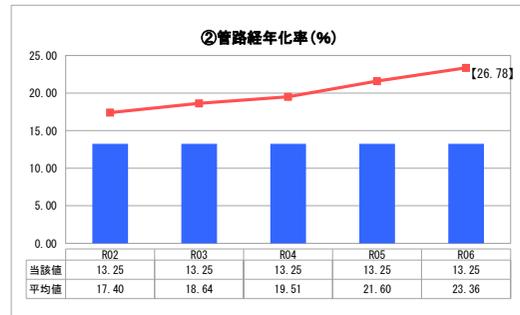
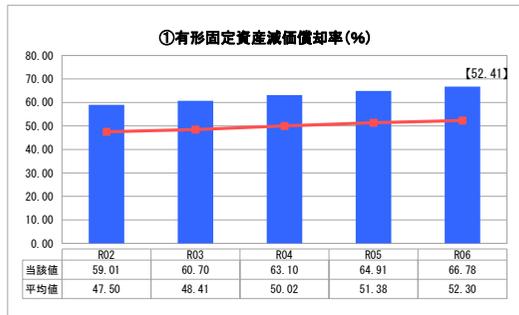
グラフ凡例

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

前年度決算に比べ、営業費用が増加している一方、使用料収入が減少したことから、経常収支比率は前年度に引き続き100%を下回り、累積欠損金比率も上昇しております。

流動比率は、前年度と比べ低下し、類似団体平均値を大きく下回る水準となっております。これは、現金預金残高が年々低下していることによるものです。

企業債残高対給水収益比率は、近年、企業債償還額を超える借入を行っており、減少傾向で推移しているものの、今後は管路更新や施設の改築更新を計画的に実施していくことで、企業債残高は増加していく見込となっております。

決算状況を経年比較すると、給水人口・使用量の減少等により有収水量・給水収益が減少する一方、給水原価は増加傾向にあることから、料金回収率は毎年減少し、令和4年度以降は100%を下回るなど、厳しい経営状況が続いております。

施設利用率は、若干の増加傾向にあるものの、類似団体平均値よりも低い水準となっております。各施設の利用状況や適切な施設規模を把握・分析するとともに、更新のタイミングでの施設規模の適正化等により、維持管理費用の更なる削減を図る必要があります。

有収率は年々低下傾向にあり、類似団体平均値を下回る状況となっております。管路の老朽化等による漏水も多く生じていることから、計画的に管路の更新を進め、有収率の改善に努める必要があります。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は、類似団体平均値より高い水準で毎年増加傾向にあることから、管路・施設等の老朽化が進んでいる状況にあります。

一方、管路経年率は、類似団体平均値より低い水準となっておりますが、漏水に係る修繕工事等毎年多く発生している中、過年度と同様の数値で推移していることから、管路老朽化の実態を的確に把握できていない状況が生じております。

また、管路が老朽化している中、技術職員の不足や財源の不足等により、近年は管路更新を実施できておらず、管路更新率は0%となっております。今後、施設等の老朽化はますます進んでいくことから、計画的な更新を図っていく必要があります。更新にあたっては、主要な水道管である基幹管路を中心として、耐用年数等も考慮しながら優先順位をつけ、老朽化・劣化が進行している箇所から効率的に耐震化及び更新を行ってまいります。

全体総括

上記のとおり、町の水道事業は経営状況の改善と水道施設改築更新のスピードアップが急務となっております。

このような状況を受け、令和8年4月請求分（3月使用分）より全体で34%の水道料金改定を行い、収入の基盤となる給水収益の増収を図りました。

当該改定により、当面の間は利益を計上することが可能となる見込で、累積欠損金の解消や改築更新の財源を確保できると見込まれます。

しかしながら、料金収入の減少や事業費用の増加は今後ますます進行していく見込となっておりますので、引き続き料金改定の可否は継続的に検証していくこととします。町としては、国庫補助金の活用・経営の効率化・施設規模の適正化等により、財源の獲得と経費の削減に日頃より努め、可能な限り次回料金改定率を抑えられるよう経営努力を続けてまいります。